

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年8月17日(2006.8.17)

【公表番号】特表2002-530446(P2002-530446A)

【公表日】平成14年9月17日(2002.9.17)

【出願番号】特願2000-582444(P2000-582444)

【国際特許分類】

C 0 8 G 64/20 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 64/20

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月23日(2006.6.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 (A) 1～5 mmの直径を有する前駆体ポリカーボネートペレットを、液体又は蒸気状態のC₁₋₂₀アルカノールからなる1種類以上の非溶媒と15～60分間接触させて、結晶化度の向上した前駆体ポリカーボネートを生じさせ、

(B) 結晶化度の向上した前駆体ポリカーボネートを、不活性ガス流中、215～225℃の範囲内の一定温度で加熱する段階を含む固相重合条件に付して、ゲルパーミエーションクロマトグラフィーでポリスチレンを標準として測定した数平均分子量が15000以上のポリカーボネート生成物を生じさせる

ことを含んでなる、芳香族ポリカーボネートの製造方法。

【請求項2】 前記前駆体ポリカーボネートがホモポリカーボネートである、請求項1記載の方法。

【請求項3】 前記前駆体ポリカーボネートがコポリカーボネートである、請求項1記載の方法。

【請求項4】 前記前駆体ポリカーボネートがコポリエステルカーボネートである、請求項3記載の方法。

【請求項5】 前記前駆体ポリカーボネートがビスフェノールAのホモポリカーボネート又はコポリカーボネートである、請求項1記載の方法。

【請求項6】 前記前駆体ポリカーボネートが、ゲルパーミエーションクロマトグラフィーで測定して2000～10000の重量平均分子量を有するオリゴマーである、請求項1記載の方法。

【請求項7】 前記前駆体ポリカーボネートがゲルパーミエーションクロマトグラフィーで測定して10000～35000の重量平均分子量を有し、ポリカーボネート生成物がゲルパーミエーションクロマトグラフィーで測定して50000～80000の重量平均分子量を有する、請求項1記載の方法。

【請求項8】 前記前駆体ポリカーボネートが枝分れポリカーボネートである、請求項1記載の方法。

【請求項9】 前記前駆体ポリカーボネートがリサイクルポリカーボネートである、請求項1記載の方法。

【請求項10】 段階Aで使用する非溶媒がメタノールである、請求項1記載の方法。

【請求項11】 段階Aでの接触が液体状態で行われる、請求項10記載の方法。

【請求項 12】 段階 A での接触が蒸気状態で行われる、請求項 10 記載の方法。

【請求項 13】 段階 A での接触が、75℃以上であって以下の関係で定義される接触温度で行われる、請求項 1 記載の方法。

$$T_c \geq T_b - z$$

ただし、 T_c は接触温度（℃）であり、 T_b は接触圧力での非溶媒の沸点（℃）であり、 z は定数であってその値は60である。

【請求項 14】 段階 B で単一の加熱段階を用いる、請求項 1 記載の方法。

【請求項 15】 前記単一の加熱段階の温度が220℃である、請求項 14 記載の方法。

【請求項 16】 段階 B で2つの加熱段階を使用し、第一段階が180～190℃の範囲内の温度であり、第二段階が215～225℃の範囲内である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 17】 第一加熱段階及び第二加熱段階の温度がそれぞれ180℃及び220℃である、請求項 16 記載の方法。

【請求項 18】 前記不活性ガスが窒素である、請求項 1 記載の方法。

【請求項 19】 段階 B の加熱段階の総滞留時間が8～12時間である、請求項 1 記載の方法。